

# 日本大学 三島 同窓会々報

第 11 号

昭和57年11月3日  
静岡県三島市文教町2  
日本大学三島同窓会 発行



13号館完成予想図



- 一、前年度事業報告について
- 二、前年度決算報告について
- 三、監査報告について
- 四、本年度事業計画について
- 五、本年度予算について
- 六、役員改選について
- 七、活動状況報告について
- 八、その他

総会は、染谷徳昭氏の司会で進められ、種房会長がご病気のため遠藤逸雄副会長がかわって挨拶され、宮沢主計氏を議長に、遠藤日出夫氏を副議長に、土屋忠得、宮沢愛子両氏を書記に選出、議事にはいり次の事項が報告、承認された。

今総会のあと、恒例の懇親会が同会場において、恩師の先生方を囲んで盛大に行われ、なごやかな雰囲気のうちに幕を閉じた。



日本大学三島同窓会昭和五十六年度総会は、母校日本大学三島大學生祭四日目の昭和五十六年十一月三日午後四時から、同学園内記念館で開催された。

事業報告並びに事業計画は、瀬川一男事務局長、決算並びに予算是、石川貞夫会計担当常任幹事、監査報告は、中島敏男会計監査からそれぞれ報告が行われた。その他では、会長から常任幹事の増員が提案され、西野和衛、江本博勝、大島裕一、井出博美、渡辺忠昭、各氏が新たに常任幹事として承認された。

## 昭和五十六年度総会開かる



## 銀杏並木の由来

奥田 吉郎

(三島市長)

今年も秋が深まり、日大通りの

銀杏並木が色づいてきた。間もなく、目を見張るような黄色となつて、風の吹く度に木の葉が散り、歩く足もとを黄金色に染めあげてゆく。

この並木道を、三島学園に通つた学生や生徒の数は、はかり知れない程多いであろう。

しかし、母校を想い出す時にはこの銀杏並木が鮮明に脳裏に浮かび上るに違いない。

一年を通して変化に富むこの並木道については、人それぞれの感懷があるであろう。

あるかなしかのような小さな新芽が吹き出して、萌黄色に拡がつてゆくのは入学式の頃で、葉並が揃つてもせ返るような新緑の時はもう勝手知つた並木道となる。

夏の日差しをさけて緑陰を楽しむ時は、大木の有難味を感じ、秋となり紅葉に彩られ、落葉を踏むのは、大学祭の季節である。

葉がすっかり落ちて、枯れた並木道を仰ぐのは、学園と別れが近づいてきた印である。

この並木道を愛しているのは、私達だけではない。この道を通つて他の学舎に忙ぐ多くの生徒児童や、緑をこよなくめでる多数の市民も同じである。

先日の市長相談日に、用件の終

つた上品なお婆さんが、私は銀杏並木が好きで、晴れた日には並木越しに富士の見えるのを楽しみにしていたが、交通安全の大きな看板が歩道橋にかけられ、それが見られないでしようかと云いおいて帰られた。

先年、三島市と姉妹都市であるアメリカのパサディナ市から、女性ながら、市長にそのごなられたジョー・ヘックマン女史が来訪され、市民体育館の前に、市の木である銀杏を記念として植樹して戴いた。

その銀杏の成長を気にして、手紙に度々そのことが記されていた。

そのため、その三島を訪れたパサディナの代表团に、彼女に代つて銀杏に水をかけて貢つた。

こんな小さな木で大丈夫ですかと質問があつたので、この木は将来大きくなることを希望して貢つた。

この木になりりますよと、日大通りの銀杏並木を紹介した所、その素晴らしさに感嘆をし、並木を写真にとり、また並木を背景にして記念写真をとられた。

ここにあげるまでもなく、銀杏並木をめぐるエピソードには、ことを欠かないであろう。それだけに、この並木を知る人々の心に、その二、手紙と資料を私に渡さから、議会で発言をされ、議事録に記されることとなつた。

その二、手紙と資料を私に渡さ

れ、私も適当な発表の機会があれば、江湖に紹介したいと思いつつもいたずらに時が過ぎてしまった。

柏木亮氏は、満期除隊後は、出

つ頃、どうして誕生したのかについて知る人は少ない。

私自身、長い間、このような並木道を作りあげた人々は誰であろうかと疑問に思ひながらも、とどめつまり當時の重砲の連隊が、創設時に植樹したものであろうと漠然と定義づけていた。

特に、市長に就任し、緑化の運動を手がけ、並木道にたずさわるようになると、東海道の松並木、遺伝研前の桜並木と並んで日大通りの銀杏並木のことが、頭から離れ難いものとなってきた。

しかし、全く思いがけない所から、そのルーツを知る機会が生まれたのである。

裾野市上ヶ田三〇二番地の八木一郎氏から、昭和五十四年に一通の手紙と資料が、当時の元山中出身の市会議員高梨公男氏に寄せられ、銀杏並木の由来についてつづられてあり一読したあと奥田市長に渡して欲しいと付言してあつた。

高梨氏は、三島市の歴史の一頁として記録にとどめたいとの配慮連隊第一中隊に入隊した。

茂作氏の本籍地である旧駿東郡富岡村上ヶ田（現裾野市）の近所の一〇七番地の柏木亮氏も同じ日に入隊し第三中隊に所属した。

柏木亮氏は、満期除隊後は、出

かに原稿の依頼があり、積年の約束を果たすのはこの時と思い、あえて筆をとつた次第である。

これから記すのは、その要旨を私なりにまとめたものである。

この手紙の主八木一郎氏の伯父八木茂作氏（故人）は、当時の田方郡三島町北町（鎧坂）にて、土地測量並びに各種苗木生産販売業を経営、妻かねさん（故人）は、旅館業を営んでいた。

更に大正十二年十二月十日に西氏が除隊する頃は、その年の異常な干天続きと、九月一日の関東大震災の影響で全部枯死してしまつたそうである。

そこで、八木出男氏、柏木亮氏が八木茂作氏に相談し、三年生の銀杏の苗百本、ゆうかり二十本を貰い受け、大正十三年三月十日、当時の陸軍記念日を期して、前記男子三名に女子四名の応援を受け、歩行七歩の割り合いで銀杏を片側に植樹したそうである。

銀杏の苗百本、ゆうかり五十本ずつ計百本、ゆうかり十本ずつ計二十本を植樹したそうである。

民間のこの三者による尊い苗木の供出と奉仕により今日の並木を見ることができたのである。

が、銀杏並木は、あれからおおよそ六十年近くの歳月を得て大木に成長してきた。

昭和二十年終戦を境として、かつての重砲の後は日大を中心とする文教地区に生まれ変わった。

三島学園を訪れる人々は年々歳々変つてゆくかも知れないが、あの銀杏並木は、歴史を刻みながら雄々しく育ってきたのである。

（本会副会長）





## ローバースカウト隊の大プロジェクトの実践を

渡部浩司

国際関係学部が開設され早くも第一回生を送り出す年となりました。愈々発展される三島学園に“いやさか！”をおくります。

小生、三島教養部時代の最後の二年間、楽しい学生生活を送りました。この間、玉津先生をはじめ学生課の諸先生方や、種房会長等諸先輩にご訓陶を賜わり、なつかしい思い出でいっぱいです。

ら、ふと、三島にローバー隊があるだろ？か、活動はどうだろ？か……。いそいで学園ニユース級を見直し、文化部門の最後にローバースカウト部を見つけまづ一安心した次第です。ご存知の通り、ボーイスカウトは、野外生活等を通じて、よき社会人を育成する大切な社会教育の一部門なのです。人格形成の為に現代の学校生活や家庭生活でも成し得ないものが、この活動の中で自然に育くれます。

証券に勤務、其後、岩手で商業を営み現在に至っております。商売の傍、ボーカルで活動で自然を満喫し乍ら楽しい毎日を過ごしております。五十二年に富士山麓で行われた第七回ボーカル日本チャンピオンに中の息子と一緒に参加し、久方ぶりなつかしの静岡の空気に酔いしれて來た次第です。野外生活の中で、自然の偉大さを改めて認識したり、体力増進と共に集中力や協調性が生まれて來ます。私にとっては、若い人達に遊ん

でもう為、いつも若い気分で居られるのが  
なによりです。

大会前年末、ボイスカウトのリーダー研修会（ウッドバッジ研修所）に参加した時、

福島県から参加した矢野君と云う青年と同室になりました。彼の制服についてワッペンを

見て“日に日に新たにですか？”と質問。“や  
あ先輩なのですか？”と云ふことで日大話を

したところ、彼は日大工学部のローバースカウトで、三島出身の田島文義先輩が团委員長をされている隊のスカウトだったのです。田島先輩によろしくと云つて彼と別れてか



三島学園の思い出

時藤京子

私にとつて三島学園で過ごした二年間には様々な思い出が数多くござります。辛く苦しめた事迄も十余年も経た現在では楽しい思い出となりつつ、遠き心の故郷として、今も私の脳裡に焼きついて離れません。入学当時は学園生活や下宿住まいにも慣れず、ホームシックにもかかりました。深夜三島駅で下り列車を一人待つ心細さ、又逆に夜行列車で一夜を明かし、白銀に輝く雄大な富士山を目の辺りに致しました時の喜びは、本当に素晴らしい景色でしばし見とれて居りました。そのような私でございましたが、二年間微力ながらも学生会役員をさせていただいたお陰で、すぐにホームシックからも快方されて居りました。学生会ニュースの発行に当たり、ニュースや写真を求めて四散、原稿依頼、少ないスペースでの編集ですので校正作業に至る迄には大変な苦労でございました。山中月見ヶ丘寮での大学祭研修会では、師弟膝詰めでの集中論議、机上原案は実行可能でございましていざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りには進行せず、深夜迄再検討の連続でございました。余り遅くなりましたが下宿先の迷惑を考えて居りましたかどうか分かりませんが、窓から帰った日も有ったように思います。当になりますと四号館を登つたり降りたり、あちこちの校舎を行つたり来たりの連続で、足が棒のようになつて居りました。石川啄木生誕八十年記念展開催に当たりましては、当時指

話を伺つたり、資料を貸していただきました事、クラス担任の水島義治先生から「一期一会」「真幸くこそあれ我が若き友よ」という贋の言葉をいただきました事、試験ともなりますと良くも無い頭に徹夜での詰め込み勉強、道を隔てた前の寿司屋さんが深夜シャリの残りを窓越しに差し入れて下さった記憶もござります。移行式では答辞を述べる際に「光陰矢の如し」という言葉が文中にございましたが、どうしても山口訛りが口から出てしまいましてアクセントが違うのでござります。何度も練習を致しましたが思うようには発音出来ず、当日になりますと上がつてしまいまして、文字は見えなくなりますし、どのように発音致しましたものやら全く記憶にございません。ここには書き尽くす事が出来ませんが、それら数多くの体験は今迄の私に何度力を与え、励ましてくれた事でございましょう。そして今後の人生にもきっと役立つてくれるものと信じて居ります。当時ご指導・ご鞭撻いたきました恩師・同窓生の皆様もお元気にお活躍の事と推察致して居りますが、二年間という短期間に遭遇する事の出来ました多くの人々、又有意義な楽しい学園生活を送る事が出来ました事には、この上も無い深い喜びを感じて居ります。その後、三島学園を訪問する機会を得ないまま現在に至つて居りますが、何時迄も青春時代の良き思い出の一頁として、大切にしまつておきたいと存じます。

机上原案は実行可能でございましてもいざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りには進行せず、深夜迄再検討の連続でございました。余り遅くなりました日には下宿先の迷惑を考えて居りましたか分かりませんが、窓から帰った日も有つたよう思います。当日になりますと四号館を登つたり降りたり、あちこちの校舎を行つたり来たりの連続で、足が棒のようになつて居りました。石川啄木生誕八十年記念展開催に当たりましては、当時指導教授をされて居られました岩城之徳先生と、

のと信じて居ります。当時ご指導・ご鞭撻いたきました恩師・同窓生の皆様もお元気にご活躍の事と推察致して居りますが、二年間という短期間に遭遇する事の出来ました多くの人々、又有意義な楽しい学園生活を送る事が出来ました事には、この上も無い深い喜びを感じて居ります。その後、三島学園を訪問する機会を得ないまま現在に至つて居ますが、何時迄も青春時代の良き思い出の一頁として、大切にしまつておきたいと存じます。

(昭41・42、国文専攻在学、家事)

机上原案は実行可能でございましてもいざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りには進行せず、深夜迄再検討の連続でございました。余り遅くなりました日には下宿先の迷惑を考えて居りましたか分かりませんが、窓から帰った日も有つたよう思います。当日になりますと四号館を登つたり降りたり、あちこちの校舎を行つたり来たりの連続で、足のと信じて居ります。当時ご指導・ご鞭撻いたきました恩師・同窓生の皆様もお元気にご活躍の事と推察致して居りますが、二年間という短期間に遭遇する事の出来ました多くの人々、又有意義な楽しい学園生活を送る事が出来ました事には、この上も無い深い喜びを感じて居ります。その後、三島学園を訪問する機会を得ないまま現在に至つて居ります

机上原案は実行可能でございましてもいざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りには進行せず、深夜迄再検討の連続でございました。余り遅くなりました日には下宿先の迷惑を考えて居りましたかどうか分かりませんが、窓から帰つた日も有つたよう思います。

のと信じて居ります。当時ご指導・ご鞭撻いただきました恩師・同窓生の皆様もお元気にお活躍の事と推察致して居りますが、二年間という短期間に遭遇する事の出来ました多くの人々、又有意義な楽しい学園生活を送る事が出来ました事には、この上も無い深い喜び

机上原案は実行可能でございましてもいざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りには進行せず、深夜迄再検討の連続でございました。余り遅くなりました日には下宿先の迷路と信して居ります。当時ご指導・ご鞭撻いたきました恩師・同窓生の皆様もお元気にご活躍の事と推察致して居りますが、二年間という短期間に遭遇する事の出来ました多く

机上原案は実行可能でございましてもいざ実行となりますと、あれもこれもと理論通りに

生会役員をさせていたたいたお陰で、すくにホームシックからも快方されて居りました。学生会ニュースの発行に当たり、ニュースや写真を求めて四散、原稿依頼、少ないスペースでの編集ですので校正作業に至る迄には大変な苦労でございました。山中月見ヶ丘寮での大学祭研修会では、師弟膝詰めでの集中論議、

て、文字は見えなくなりますし、どのように発音致しましたものやら全く記憶にございません。ここには書き尽くす事が出来ませんが、それら数多くの体験は今迄の私に何度力を与え、励ましてくれた事でございましょう。そして今後の人生にもきっと役立つてくれるも

車を一人待つ心細さ、又逆に夜行列車で一夜明かし、白銀に輝やく雄大な富士山を目の辺りに致しました時の喜びは、本当に素晴らしい景色でしばし見とれて居りました。そのような私でございましたが、二年間微力ながらも学生会役員などを務めて、こども、こちら会員、一ヶ月、矢の如し」という言葉が文中にございましたが、どうしても山口訛りが口から出てしまいましてアクセントが違うのでございます。何度も練習を致しましたが思うようには発音出

私にとって三島学園で過ごした二年間には様々な思い出が数多くございます。辛く苦しめた事迄も十余年も経た現在では楽しい思い出となりつゝ、遠き心の故郷として、今も私の脳裡に焼きついて離れません。入学当時は学園生活や下宿住まいにも慣れず、ホームシックにもかかりました。深夜三島駅で下り列車に乗り込みました。

会話伺つたり、資料を貸していただきました事、クラス担任の水島義治先生から「一期一  
かたた事迄も十余年も経た現在では楽しい思  
い出となりつゝ、遠き心の故郷として、今も私  
の脳裡に焼きついて離れません。入学当時は  
学園生活や下宿住まいにも慣れず、ホームシ  
ックにもかかりました。深夜三島駅で下り列  
車に乗り込みました。

「真幸くこそあれ我が若き友よ」という贋  
の言葉をいただきました事、試験ともなりま  
すと良くも無い頭に徹夜での詰め込み勉強、  
道を隔てた前の寿司屋さんが深夜シャリの残  
りを窓越しに差し入れて下さった記憶もござ  
ります。

# 日本大学会館が完成



千代田区西神田で昔から親しまれてきた日本大学本部が日本大学会館として生まれ変わり、千代田区市ヶ谷に二年半の歳月をかけて完成した。大学の新しい歴史を刻

む“センター”となるのにふさわしく、地下二階、地上九階の会館は重厚な外観が注目を集めているが、機能面にも最大限の配慮がほどこされているのが特徴である。

## 国際関係学部 完成年度を迎える

## 吉原事務局長 本部へ栄転



昭和五十四年四月新しい時代の要請にこたえて国際的視野と語学の素養を基礎に、国際関係を深く理解しうる人間の育成を目的として開設された国際関係学部も、昭和五十八年三月国際関係学科・国際文化学科（男・女）の第一期生二百四十七名が卒業する運びとなり、学部開設以来何かとご支援をいただいておりますが、就職等で後輩が訪問した折は以前にも増し

てご支援・ご協力を願いいたしました。

昭和五十四年四月新しい時代の要請にこたえて国際的視野と語学の素養を基礎に、国際関係を深く理解しうる人間の育成を目的として開設された国際関係学部も、昭和五十八年三月国際関係学科・国際文化学科（男・女）の第一期生二百四十七名が卒業する運びとなり、学部開設以来何かとご支援をいただいておりますが、就職等で後輩が訪問した折は以前にも増し

てご支援・ご協力を願いいたしました。

第三十二回三島学園大学祭は、本年も十月三十一日、十一月一、二・三日の四日間にわたり行われることになりました。

統一テーマは、「今、僕達で生きることは……」で、恒例の学術・文化展、文化・体育団体発表、郷土名産展のほかに、

十月三十日には

本学芸術学部出身の山本晋也映画監督の講演「私と映画人生」

市中パレード、初日祭

十一月一日は

演武、国連映画

十一月二日は

コンサート「デコレーション」

十一月三日は

コンサート「真梨邑ケイ」

このほか、連日野外ステージでは学生の手による野外コンサートが行われ、最終日の後夜祭で幕が閉じられることになりました。

国際関係学部の学生を中心にしての大学祭は、今年で二回目ですが、よりアカデミックな大学祭への志向と共に、学生の自治意識の高まりを感じると無言の圧力として感ずるこの頃です。

## 就職指導課を新設 課長に伊藤久光氏就任

国際関係学部設置以来早くも四年の歳月が経過し、来春第一期の卒業生を迎えるあたり今年四月から就職指導課を設置し、八月一日付で前商学部学生課長伊藤久光氏が課長に就任した。



## 第三十二回三島学園 大学祭開かる